



# やどいきっ子

学び続ける学校 あたかな学校 潤いのある学校

## 学校教育目標

「自ら学び 心豊かに たくましく生きる子」

- やさしい子      ○努力をする子
- 理想を求め子   ○きまりを守る子

## 持続可能な開発目標 (SDGs) に向けて — 平和と幸せをすべての人に —

寄ロウバイ園の淡い黄色と優しい香りに包まれた1月から季節は進み、松田山の河津桜の鮮やかな桜色が映える2月もあとわずかになりました。2月後半になり「三寒四温」とはよく言ったもので、一雨ごとに春の訪れを予感させます。

さて、「2月24日は、何の日でしょうか？」ロシアがウクライナに侵攻し、2年になります。首都キーウ攻略によって短期間で終結するもくろみは、欧米の支援を受けて、激しい攻防が続いています。さらにイスラエルとイスラム組織ハマスとの戦闘は、多くの民間人の死傷者が出ており世界的な人道的非難の声が上がっています。

松田町は県内の町村として初めてSDGs未来都市に選定され、小学校でもSDGsに係る取り組みをしています。子どもたち一人ひとりには、「命を大切にする」「人を傷つけてはいけない」「困っている人を助ける」「人や物に感謝する」「ケンカをしたら仲直りをする」など、人としてごく当たり前のことですが学校生活を通して学んでいます。学校だけでなく、ご家庭でも仲よく気持ちよく生活するためのルールなどを話し合っただけなら幸いです。



雪化粧の寄小学校

2024年2月5日撮影

## 2月7日、時間走記録会より — 限界に挑戦！がんばりました。 —



## 能登半島地震から学ぶ — 備えあれば、憂いなし —

2024年1月1日16時10分、石川県能登半島を中心に震度7の大規模な地震が発生しました。昨年は関東大震災から100年目に当たり、防災意識は高まっていたとは言え、実際の地震では、道路の寸断、ライフラインの復旧に時間を要すなどの課題も多く、避難されている住民の方々の心労を察します。

本校では定期的な避難訓練を行い、休み時間やそうじの時間など自学級ではない場所からの避難も行います。また、PTA予算から児童の非常食（保存食と飲料水）を購入しています。「命」を第一優先に、子どもたちの安全安心に取り組んでまいります。ご家庭でも、防災リュックや非常食の常備場所をご確認ください。



災害はいつやってくるか?!

## 学校評議員会の開催 — 学校評価の結果より —

1月27日（土）の学校公開日の午後、学校評議員会を開催しました。会議では学校教育目標の進捗状況と子どもたちの学校生活の様子を伝えました。そして、ご家庭の皆様からいただいた学校評価のアンケートの集計結果から話し合いがなされました。主なご意見として「児童が目標を持ち、それに向かって努力していくような教育活動が大切」「寄小学校は少人数であるが故に子ども一人ひとりの経験値は多くなる。そういった『プラス面』を生かして、児童を育ててほしい」「児童数が少なくても、いじめが起きることは認識している。命に関わる学習をより推進するなど、これからも丁寧に指導してほしい」などです。保護者の皆様には、会議の内容を含め学校評価の結果を2月5日付で配付させていただきましたので、ご覧ください。



## 魅力的な読み物の世界へ — きさらぎ読書旬間 —

本校では朝の時間に読書タイムを実施しています。読書ボランティア「ぱたぽん」さんの活動を以前紹介しましたが、定期的に読書推奨期間、例えば、「きさらぎ読書旬間（2月5日～29日）」と称して、読書のすすめをしています。児童の手作りのポスターはもちろんですが、「ぱたぽん」さんの掲示物や書物の紹介は読み手をワクワクさせ、おもわず図書室に行きたくなります。この期間に読破した冊数に応じて、手作りのプレゼントが用意されています。ご家庭でも子どもがTVゲームの手を休めて、読書に楽しむ環境づくりにご協力ください。



## 誰もが使える大谷翔平クラブ！ — 野球しようぜ！ —

本校に大谷クラブがやってきて、約1ヶ月が経ちました。子どもたちは中休み、昼休みに真っ先に職員室前にやってきて、借りていきます。3つのクラブは、自由に使えます。また、高学年はマイクラブを用意し、大谷クラブは低学年優先に使っているようです。全校で楽しく遊ぶのが本校の特色です。みんな楽しく「野球しようぜ！」大谷選手、ありがとう！



## 住み続けられるまちづくりを — 寄ロウバイまつりの奉仕活動 —

寄地区のイベントの一つに「寄ロウバイまつり」があります。6年生は家庭科の授業「共に生きる地域での生活」、5年生は総合の時間「環境」の一環として、ゴミ拾いを行いながら道路・会場周辺を清掃しました。美しいロウバイを楽しみながらの奉仕活動は、自分たちで出来る地域貢献活動の一つです。予想以上に集まったゴミを見て子どもたちは驚くとともに、未来の循環型社会の姿の在り方を考えていくことでしょう。

